

原発が軍事標的、状況複雑に

福井から問う

5

「原発は軍事標的」

3月4日、ロシア軍がウクライナ最大のザポロジエ原発を砲撃し、世界に衝撃が走った。ロシアを含むほとんどの国が批准するシェンゲン条約では原子力施設への攻撃を禁じているが、無法者国家が現れれば、原発が軍事標的になり得る現実を突き付けられた。

「日本で同じようなことは起きない」と信じているの

だけだ」と。関西電力高浜原発の4基が立ち並ぶ内浦半島に住む内谷久男さん(83)＝高浜町音海＝は複雑な表情を浮かべた。

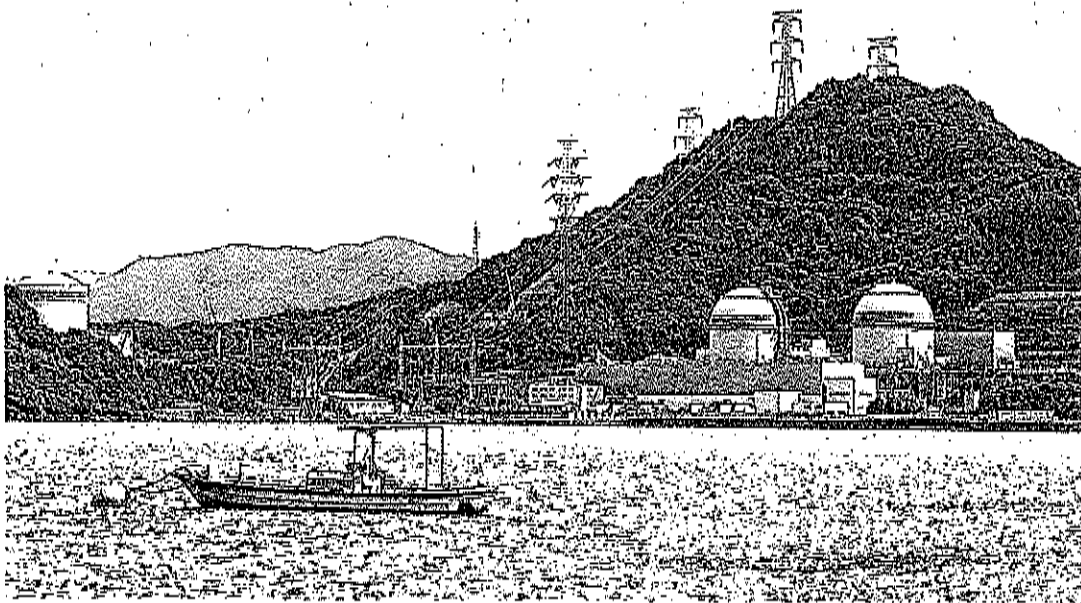
杉本達治知事の動きは速かった。ザポロジエ原発が制圧された4日後には岸信夫防衛相と面談。原発が立地する嶺南地域への自衛隊配備を早急に実現するよう緊急要請した。全国知事会

も追随し、ミサイル攻撃への対処として「自衛隊による迎撃態勢、部隊の配備に万全を」と政府に求めた。

原発が軍事的なリスク要因になり得ることが判明した一方で、エネルギー安全保障の問題が浮き彫りとなった。原発の稼働は立地地域の経済にも直結する。原子力の是非論は複雑さを増しているのが現状だ。

高浜町に住む女性(57)は胸の内を明かした。「今ある原発を稼働させなければ、人の流れも止まるし、技術者も育たない。軍事リスクよりも…」(岩淵善郎)

【3面に続く】



内浦半島に立地する関西電力高浜原発。3、4号機はテロ対策施設が完成し、1、2号機は来年5月ごろに工事を終える予定＝高浜町音海